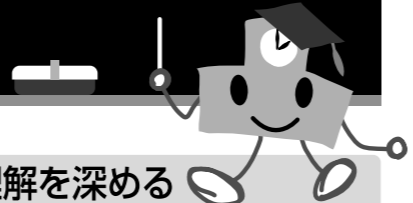


高校の事例 南区 藻岩高校

「環境学習ノート」を学校独自に作成。 英語、数学、生物の副教材としても活用。

学校として初の北海道環境マネジメントシステムを取得。
全体的に取組めるよう、授業時間に環境学習を取り入れている。
効果的に学ぶため「環境学習ノート」を独自に作成し、
総合的な学習の時間をはじめ、他教科でも活用。



はじめに 全校生徒が学校の環境への取組を学び理解を深める

本校は平成16年から3年間、札幌市の「環境モデル校」の指定を受けて活動。その後、平成18年度からは全校をあげて環境活動に取組んでおり、それらの取組の持続性を図るため、平成19年度、学校としては初となる北海道環境マネジメントシステム(HES)を取得している。しかし、ボランティア等の活動は部活動のある生徒は参加できない場合も多いことから、授業時間に効果的・総合的な環境学習ができるよう、平成20年度に「環境学習ノート」を独自に作成。以後、全校生徒がこれを活用して学習を行っている。



環境学習ノート

内容 札幌市内の川の水質検査を全校で実施

環境学習ノートはA4判約60ページに、まず学校が進めている環境教育の目的、HESでの取組や生徒会を中心とした環境活動などについての記載があり、これらについての設問やレポートシートを活用して理解と学習を深めていけるように作られている。

また、総合的な学習の時間で環境学習に活用するページには、教室で出たごみを計ってCO2産出量を計算したり、雨や雪の酸性度を調べたりといった、総合的な学習の時間を使った具体的な取組が列挙されている。これを活用し、本校では平成20年8月に、札幌市内を流れる石狩川水系の水質検査を、全校生徒が参加して行った。検査には、教員が実施日の前日に、定山溪周辺から石狩市周辺に至る32地点で採取した水を使用した。



HES認定証

生徒は班ごとに簡易キットを使って、汚染度の指標であるCOD(科学的酸素要求量)などを測定。試薬の色の濃淡からそれぞれの値を読み取り、地図上の採取地点に記入。全クラスの結果を持ち寄り、札幌市内の河川の汚染度マップを作成した。

この検査の結果、汚染度が高い下流域とは対象に、学校がある南区の水質に問題はなく、学校周辺の身近な環境の素晴らしさを知る機会となった。また実際に自分たちが調べることで、より環境問題について



取組の内容

身近に捉える機会ともなっている。

環境学習ノートは総合的な学習の時間での活用のほか、英語・数学・生物など各教科で利用できるよう、関連づけた内容が掲載されている。例えば、英語は環境サミットの英文スピーチを掲載、数学は一本の木の成長にかかる年月を考える数列の問題など、副教材的に使用することができるような資料と設問が用意されている。



環境活動in藻岩

今後 本校の多彩な取組をまとめ 全体の理解を促す

環境学習ノートの内容は、教科ごとに教員が話しあって作成し、全国的にも通用する、レベルの高いものに仕上がっていると考えている。また、利用する生徒にとっても、多角的な視点から環境について考えることができ、よい効果を生んでいると感じている。

しかし、現状では総合的な学習の時間に割り当てられる時間が少なく、じっくり時間をかけて環境についての取組を行うことが難しくなっている。生徒が魅力を感じる取組のためには、5~10時間程度、まとめて活動することが望ましいのではないかと考えている。

今後については、新たな環境学習ノートの作成なども視野にいれ、現在本校で行っているさまざまな環境

学習を一冊にまとめていければと考えている。それにより、本校の環境教育全体が、生徒にとって分かりやすくなり、本校のめざしているところを理解しやすくなるかと考えている。



情報化授業での環境ポスター



本校では、現在、様々な場面で行っている環境学習を一冊にまとめる、という方向で進めていくことを考えています。ただし、無理をしないことも大切。本校でも、「環境学習ノート」に限らず、各教科や行事などで行っているものを体系づけることで「環境教育」を実践し続けていきたいと考えています。